

1 単元 第一次世界大戦と日本・アジア（「わたしと大正期」）

2 目標

- ◎ 第一次世界大戦前後のあらましについて関心をもち、課題に基づいて調べ考えることを通して、国際協調が進んだこと、国民の政治的自覚が高まったこと、我が国の近代産業が発展したこと、国民生活の向上が見られたこと、文化の大衆化が進んだ時期であることに触れ、この時期の特色について自分の考えをまとめようとしている。
〈社会的事象への関心・意欲・態度〉
- ◎ 第一次世界大戦前後の時期の我が国の動向と世界の動きのあらましを、資料を基に、さまざまな面や立場から考察し、この時期の特色として自分の言葉でまとめることができる。
〈社会的な思考・判断〉
- ◎ 必要な資料を取捨選択して、活用し、論拠を明確にしながら第一次世界大戦前後の時期の特色について、自分の言葉でまとめることができる。〈資料活用の技能・表現〉
- ◎ 第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましや当時の国際情勢、それとかわる日本の動きや国民の政治的自覚の高まり、文化の大衆化について、理解することができる。
〈社会的事象についての知識・理解〉

3 単元について

本単元は、学習指導要領の歴史的分野・内容（5）「近現代の日本と世界」のエおよびオを受けて設定した。ここでは、「第一次世界大戦開戦前後から戦後の国際協調が進む時期の我が国の動きと世界のあらましを理解させる」とともに、「民族運動の高まり、国際平和への努力、我が国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる」ことをねらいとしている。また、この時期には「近代文化の形成と文化の大衆化が進んだこと」が見られたことにも気付かせたい。

ここで学習活動の対象となる大正期は、国際的な地位の向上のために近代国家の設立をめざしてきた明治と複雑な世界情勢のなかで太平洋戦争を経験したのち民主化と国家の再建をめざした昭和の「狭間」に位置する。この時期には、第一次世界大戦への参戦から国際連盟の設立、軍縮条約の締結など、日本には、近代国家として、世界の動きに積極的に参画する姿勢が見られた。また国内においては、国民の政治的自覚が高まったり、文化や情報が大衆化したりするなど、市民の生活や政治意識に変化が見られた時期であった。反面、日清・日露戦争からの流れや各社会運動への反動から、国全体として、国家主義へ向かう動きも見られた。

事前アンケート〈社会科及び歴史学習について〉 H19.5実施 31人

- 歴史的分野の学習は好きですか。 クラス全体の平均 3.1
- 地理的分野の学習は好きですか。 クラス全体の平均 2.3
- ※ 1（マイナスのイメージ）から4（プラスのイメージ）の数直線上の数字に丸印を付ける方法で質問した。
- 好きな時代に3つに丸印を付けてください。〔上位3つと大正時代〕
 - ・安土桃山時代 17人(23.4%)，江戸時代 17人(24.3%)，平安時代 7人(10%)
 - ・大正時代 1人(1.4%)
- 印象に残っている人物に3つ○印を付けてください。〔上位3人と近代の人物〕
 - ・織田信長 19人(21.6%)，徳川家康 15人(15.9%)，豊臣秀吉 14人(17.0%)
 - ・野口英世 2人(2.3%)，勝海舟・板垣退助 1人(1.1%)

本学級の生徒は、明るく元気で何事にも積極的に取り組む。社会科では能動的な活動を意欲的に行い、小集団での活動において、活発に意見を交わしながら取り組めるというよさがある。しかし、社会的事象に対して、一人一人が考察を重ね、資料などの根拠をもとに自分なりの考えをまとめたり、深めたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。

本年度5月に「社会科学習についてのアンケート」を行った。「好きな時代を3つ選んで下さい。」という設問に対して、上位から「江戸時代(24.3%)、安土桃山時代(24.3%)、平安時代(10.0%)」という結果であったのに対し、「大正時代」は1.4%と最低の選択率であった。また、小学校で学習してきている42人の歴史上の人物のうち、「印象に残っている人物を3人選んで下さい。」という設問においては、同「織田信長(21.6%)、徳川家康(15.9%)、豊臣秀吉(17.0%)」という結果だった。近現代に活躍した人物はほとんど選択されておらず、勝海舟、板垣退助が各1名、野口英世が2名であった。これは、生徒にとって近現代、特に大正期の印象が非常に薄いことを表しているといえる。

そこで本単元を構想するにあたっては、次の二つに留意した。第一は、個人学習の確保である。歴史学習のねらいでもあり、楽しみにもなることの一つは、歴史的事象の解釈である。資料から得られた事実を積み重ね、歴史的事象を多面的に見たり、それが存在した時代像を構築していくことは、歴史学習の醍醐味である。また、「一人一人が考察を重ね、資料などの根拠をもとに自分なりの考えをまとめたり、深めたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い」ことに対しても、個人の課題を十分に追究させていく時間が必要だと考える。歴史学習に対して、より能動的にかかわらせていくためには、歴史的事象の解釈を楽しめる学習過程を工夫する必要があるだろう。そのために、学習内容としての基礎・基本的な事項を押さえるべき一斉学習と個人の問題意識を大切にしたい個人学習を並列的に進めていけるような単元計画にしていこうと考えた。

第二は、導入と終末における授業の工夫である。本学級には、「近現代、特に大正期の印象が薄い」という実態がある。また、中学校社会科では、歴史の大きな流れにおける大正期の特色をとらえるというねらいがある。そこで、単元を貫く問題意識を喚起したり、その時代像を明確化したりするための学習活動の工夫が必要であると考えた。そのためにまず「現代につながる大正期、大正期について知らない自分自身」を意識化するために、導入において生徒の身近な話題を取り上げようと考えた。教材としては、カレーライス、とんかつ、コロッケなど、明治末期以降に普及し、現代まで好まれて食べられ続けている料理を取り上げ、大正時代を身近に感じさせたい。身近さから興味・関心が高まり、その時代にどんなできごとがあったのかなど、それぞれ生徒に問題意識が喚起することを期待したい。終末では、それまでに得た知識を根拠として大正期を象徴するカードを選択し、その連関について考察するという活動を行いたい。そして、「現代とのより多くのつながりを見出し、大正期についての認識を深めた自分自身」を発見できるような学習としたい。

また本時では、これまで学習してきた歴史的事象を総合して、生徒一人一人のなかに生まれてきた大正期の時代像を明確化するために、次の二点を工夫する。第一点は、根拠を明確にした資料選択の場を設けることである。生徒は、既習の学習事項（一斉学習で得た知識や個人学習で追究してきた内容）などから、ある程度の大正期の時代像をもってきている。そこで、その認識を根拠として、当時の新聞に掲載された広告等のなかから、生徒の大正期の印象と重なるカードを選択する活動を行う。選んだ根拠を記述したり、その関連性や順序性を考察することで、大正期の時代像を明確化させていきたいと考える。第二点は、個々の認識を広げるための小集団学習の場を設けることである。生徒の考察や解釈は、おもに個人のなかに留まってしまっていると考えられる。そこで、「小集団での活動において、活発に意見を交わしながら取り組めるというよさ」を生かして、小集団による意見交換の場を設ける。友達同士の考えに触れ合うことで、それぞれの認識が広がり深まっていくと考える。

4 単元の指導（評価）計画〔9時間〕

時	主な学習活動	観点				学習の評価の視点
		関	思	技	知	
1	<p>○ 「大正期の三大洋食（カレー・とんかつ・コロッケ）」が、いつ頃から日本人の食生活に普及したのか話し合うことなどを通して、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 大正期はどのような時代だったのだろうか。 </div>	○				<ul style="list-style-type: none"> ・大正期から現代まで継続する社会的事象について話し合うことで、その時代のように関心をもつことができる。
2	<p>○ 前時の感想を発表し合うことで、学級全体の学習課題を確認し、それぞれのもった課題意識を紹介する。</p> <p>○ 個人の学習課題を設定し、調べ学習をはじめる。</p>		○			<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀初頭の社会的事象への興味や関心をもとに、個人の学習課題を設定することができる。
3 { 5	<p>○ 第一次世界大戦前後の世界の情勢と日本の参戦について、資料をもとにワークシートにまとめる。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義による植民地獲得競争が激化して第一次世界大戦が開戦、日本も日英同盟を理由にそれに参加したことを理解する。
	<p>○ 戦後の国際協調と民族運動について、資料をもとにワークシートにまとめる。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後、国際協調の動きが見られ、独立をもとめた民族運動が世界各地でおこったことを理解する。
	<p>○ 米騒動のようすや背景について、政府や国民等の立場から資料をもとに検討し、話し合う。</p> <p>○ 護憲運動や社会運動の展開についても、同様の視点から資料を活用し、その様子や背景についてまとめる。</p>		○			<ul style="list-style-type: none"> ・複数の社会的事象について、さまざまな立場からの資料を根拠として検討することで、国民の政治的自覚が高まったようすについて考えることができる。 ○ 護憲運動の展開や米騒動などの社会運動の広がり等により、国民の政治的自覚が高まったことを理解する。
6	<p>○ 新たに得た知識や視点を加味しながら、個人の学習課題をもとに調べ学習を進める。</p>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題意識を明確にしなが、調べ学習を進めることができる。 ・新たな知識や多様な視点をもとに、調べ学習を進めることができる。
7	<p>○ 近代産業の発展にともなって、文化の近代化や大衆化がなされていった様子について、具体的な事例についての資料を選択し、調べる。</p> <p>○ 各自の調べた事例をもとに、小集団で話し合う。</p>			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の近代化や大衆化のようすを明らかにできる資料を選択し、具体的な事例を通してそれを説明することができる。 ○ 近代産業の発展等により国民の生活向上が見られ、それにもなって文化が近代化し、大衆化していったことを理解する。
8	<p>○ 大正期についての印象を明らかにしながら、個人の学習課題にもとづく調べ学習をまとめる。</p>		○			<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を根拠として、自分なりの大正時代の時代像を構築することができる。
9 (本時)	<p>○ 理由を明らかにしながら、カードを選択し、小集団で話し合うことなどを通して、「大正期の時代像」をまとめる。</p>			○		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を振り返り、それを根拠として「大正時代の時代像」を自分の言葉でまとめ、表現することができる。
10	<p>○ 「単元の学力の評価の時間（テスト）」を行う。</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の目標が達成されている。

5 本時の目標

(1) 目標

根拠を明確にしながら「大正期の時代像」を象徴的に表すカードを取捨選択し、友達同士で紹介し合う活動を通して、その連関について検討し、「大正期の時代像」について自分の言葉でまとめ、表現することができる。

(2) 資料・準備

年表（大正期を含む終戦までの近代）

「大正期の時代像」をあらわすカード（事件、人物、新聞広告など 20 種類程度）

ワークシート

(3) 展開

学 習 活 動	学習活動への支援
<p>1 個人学習を終えた時点で考えた、第一次世界大戦前後の時期（大正期）の時代の印象について発表し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争や国際連盟など、世界とのかかわりが大きくなった時代だった。 米騒動や護憲運動など、国内では市民の力が成長した時代だった。 現代にまで続くような、文化の近代化や大衆化が進んだ時期だった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3 枚のカードを用いて、「大正期」を自分の言葉であらわそう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を想起するために、個人学習の考察のなかから、根拠を明確にしながら「大正期の時代像」について述べているものを意図的に指名する。 本時の活動について見通しがもてるように、発表の中に出てきた考察の根拠となった歴史的事象をカードにして黒板に貼り付けていく。 本時の学習課題を明確化させるために、貼り付けたカードを結び付けることで、「大正期の時代像」が明らかになってくることを確認する。
<p>2 本時の学習課題に対して、自分の考えをまとめる。</p> <p>(1) 大正期の歴史的事象や世相が記されたカード群の中から、3 枚を選択し、番号をワークシートに記入する。</p> <p>(2) 選択したカードが、大正期の歴史的特色を説明するのにふさわしいと考えた理由をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> カードを選択する根拠は、これまで学習した事項や個人学習で調べた内容から考え、導き出すことを説明する。 カードの選択が困難な生徒には、世界や国内、人々の生活や文化など、その生徒の興味や関心に応じた視点を提示し、活動できるように助言する。
<p>3 選択したカードをグループで紹介し合いその連関について検討する。</p> <p>(1) 3 枚のカードを選択した理由を発表する。</p> <p>(2) 友達の考えを参考にしながら、カードを差し替える。</p> <p>(3) 3 枚のカードの連関を考え、ワークシートに並べ、貼り付ける。</p> <p>(4) 並べた理由をまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のもつ「大正期の時代像」の根拠となる、よりよいカードが紹介された場合には、適時カードを交換してもよいことを助言する。 カードの連関についての考えがまとまらない生徒には、選択したカードの順序性を考えるように助言する。
<p>4 「大正期の時代像」を自分の言葉でまとめる。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代日本の「ターニングポイント」だったと思う。 現代日本、「第二の夜明け」ともいえるんじゃないかな。 下り坂の途中にあった「短い登り坂」みたいなものかも知れない。 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『この 3 枚のカードからまとめると、「大正期」は・・・』という書き出しでまとめるようにする。その際、文章でも単語や句でもよいことにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <p>学習内容を振り返り、「大正期の時代像」を自分の言葉で表現することができる。(表現・技能 ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現がまとまらない生徒には、印象に残る歴史的事象やカードを選択した理由を問いかけ、各自の考えが整理できるように助言する。 「十分満足できる」と判断する視点 学習した内容を根拠として、「大正期の時代像」を自分の言葉で表現できている。 </div>